

テーマ	育ててからの評価 -4 技能型授業を実現する仕組み-				
対象	中・高	使用言語	日本語	所要時間	90 分程度
<p>概要</p> <p>アウトプット活動の評価が難しいとお感じになる先生は少なくないようですが、それはなぜでしょう。4 技能の評価にしても、主体的取り組みの姿勢の評価にしても、生徒が概ね 4 技能を駆使していたり、だいたいの生徒が主体的に取り組んでいたたりすれば、実はそれほど難しいことではないのです。難しさは評価方法にあるのではなく、生徒が実際には 4 技能を使ってなかったり、主体的に取り組んでいない、つまり実態のないものを評価しようとしているからというのが実際のところではないでしょうか。評価の方法を考える前に、生徒が英語で話し、英語で書くという教室文化を創り上げることが大切です。本講演では、「評価以前の準備活動」として、生徒が 4 技能を駆使し、主体的に学ぶことを促す授業づくりの手順をワークショップ形式でご紹介します。</p>					
講師	内田浩樹				
<p>講師略歴</p> <p>内田浩樹（うちだ・ひろき）南山大学文学部卒、南山大学大学院外国語学研究科修了。愛知県立半田（はんだ）商業高等学校教諭、名古屋短期大学専任講師、鳥取環境大学准教授などを経て、現在、国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科研究科長・専攻長、英語教育実践領域代表・教授。専門は、英語教師教育、英語教育プログラム開発、教材開発、語彙指導など。著書は「つむぐ英単語（河合出版）」、「PLAY! 拼裝英單（笛藤出版・台湾）」「英単語メモリー（Jリサーチ出版）」など。また、「国際教養大学・内田浩樹教授のライブ授業シリーズ」（ジャパンライム）等を通じて授業実践を DVD で発信している。</p>					

テーマ	ワクワクしながらみる当選番号 A Single Ticket Makes You Check Your Number				
対象	小・中・高 ALT	使用言語	日本語・英語	所要時間	90分程度
<p>概要</p> <p>(対象の先生方が、小・中・高合同の場合、校種別の場合のいずれの場合でも、提示する例を変更して対応可能です。また、英語と日本語の併用で、ALT と小学校の先生の同時参加の場合にも対応します。ALT の参加がない場合にも内容を調整して対応します。)</p> <p>宝くじの当選番号を新聞やネットで確認なさったことはありますか？あるとすれば、その回の宝くじを買ったということですね。買ってもしない宝くじの当選番号には興味がありません。</p> <p>これは、考えたり気付いたりすることの重要性を説明する良い例です。生徒自身が自分で考え、こうではないかな？と考えた場合（これが宝くじの購入にあたります）、あとに続く教師の説明（当選番号）には興味が高まります。私自身が授業をデザインするときにとっても大切にしている考え方です。わかりやすい説明をすることに全力を注いでも、そもそも生徒が宝くじを買っていないければ、教師の説明（当選番号）には興味を持ってないのです。説明する前に、生徒が考えて気付く仕組みを作ること、興味関心を高めることができます。そして、自分で頑張ったことを忘れることはありません。</p> <p>「主体的に考えて気付く」姿勢を育むことは、正しい学習習慣を身につけさせるばかりでなく、それ以上に「学ぶ楽しさを体感する方法」として意義のあることです。本講演では、教室配ることのできる「宝くじ」の具体例をお示しします。TT は、こうした主体的な学びを提供する理想的な環境です。JTE と ALT の役割に区別する必用はありません。ただ、同じ目的を共有するだけで、生徒に実りある授業にできるのです。生徒が考え、知りたいと感じて前のめりになる授業展開は、「主体的な学び」の基礎ともなります。</p> <p>Have you ever checked your ticket for winning numbers? If yes, you bought some lottery tickets. No one is not interested in the winning numbers if they don't have a ticket. This fact gives you deep insight into your teaching; When your students have made efforts to have their own ideas (equivalent to buying a lottery ticket), they are interested in the answer (equivalent to checking the winning numbers). It would help if you allowed your students to try to reach their ideas before you teach something. You may try your best to think of how to make it easier for the students to understand, but your sweat may not be paid off if your students are not interested in the topic.</p> <p>Co-teaching with JTE can be an excellent opportunity to provide a framework in which students autonomously think and notice. It is not just about fostering students' attitudes toward learning but also about helping students feel the joy of learning. What students learn through their effort will stay. This online lecture will present examples of "lottery tickets" that students surely enjoy. You do not have to distinguish between JTE's and ALT's roles. You share the same purpose, making your teaching beneficial for your students.</p>					

講師	内田浩樹 Hiroki Uchida
<p data-bbox="156 248 272 280">講師略歴</p> <p data-bbox="156 295 1437 616">内田浩樹（うちだ・ひろき）南山大学文学部卒、南山大学大学院外国語学研究科修了。愛知県立半田商業高等学校、半田東高等学校、知多高等学校教諭、名古屋短期大学専任講師、鳥取環境大学准教授などを経て、現在、国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科研究科長・専攻長、英語教育実践領域代表・教授。専門は、英語教師教育、英語教育プログラム開発、教材開発、語彙指導など。著書は「つむぐ英単語（河合出版）」、「PLAY！ 拼裝英單（笛藤出版・台湾）」、「英単語メモリー（Jリサーチ出版）」など。また、「国際教養大学・内田浩樹教授のライブ授業シリーズ」（ジャパンライム）等を通じて授業実践をDVDで発信している。</p> <p data-bbox="156 683 1437 900">Hiroki Uchida started his teaching career at a Japanese high school in 1989. He taught students on various proficiency levels for nine years, and he stepped into his new field of teacher training. He is currently teaching at Akita International University and is Dean and Director of the Graduate School, Head of the English Teaching Practices Program, Graduate School of Global Communication and Language. Author of Spinning Words from Affixes (Kawai Publishing). Teaching demos are available on DVDs (Japan Laim).</p>	

テーマ	【授業デモンストレーション】「60分で発音記号をマスター」				
対象	小・中・高	使用言語	日本語	所要時間	90分程度
<p>概要</p> <p>電子辞書の普及で、ネイティブの発音をボタンひとつで聞けるようになりました。しかし、大人の耳は、すでに言語音声学習の機能を失っていて、ネイティブの発音を聞いても、10歳未満の子どもとは違って聞こえているのです。例えば、theater という語を聞いたとしますと、大人は、"th"の音を日本語の「シ」に置き換えて聞いてしまいます。一方、幼い子どもたちは、きちんと"th"を捉えて、そのまま発音しようとします。そこで大切になるのが発音記号です。発音記号は日本語と違う音を視覚的に示してくれていますから、意識して練習することが可能になるからです。本講演は、60分程度ですべての発音記号を正しく読めるようにするワークショップです。この手順を身につければ、発音指導の効率が格段に上がることでしょう。（なお、本講演は、会場に仮の教室を設定していただきます。私が中高生にデモ授業をし、先生方に参観していただく形式となります。）その後、30分程度で先生方に発音指導の意義や狙いなどを解説します。</p> <p>また、小学校の先生方を対象にデモ授業を実施させていただき、英語の発音をトレーニングすることも可能です。</p>					
講師	内田浩樹				
<p>講師略歴</p> <p>内田浩樹（うちだ・ひろき）南山大学文学部卒、南山大学大学院外国語学研究科修了。愛知県立半田（はんだ）商業高等学校教諭、名古屋短期大学専任講師、鳥取環境大学准教授などを経て、現在、国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科研究科長・専攻長、英語教育実践領域代表・教授。専門は、英語教師教育、英語教育プログラム開発、教材開発、語彙指導など。著書は「つむぐ英単語（河合出版）」、「PLAY! 拼裝英單（笛藤出版・台湾）」、「英単語メモリー（Jリサーチ出版）」など。また、「国際教養大学・内田浩樹教授のライブ授業シリーズ」（ジャパンライム）等を通じて授業実践をDVDで発信している。</p>					

テーマ	【授業デモ・講演】 Say It in English 「英語で言ってみよう」				
対象	小・中・高	使用言語	日本語	所要時間	90分程度
<p>概要</p> <p>近年、ライティング活動への注目が高まっていますが、生徒の語数が伸びず、指導が頓挫しているという話もよく聞きます。言いたいことはあるけれど、それがなかなか英語で出てこない。英語で言えない単語がありすぎてお手上げということもあるのではないかと思います。しかし、実際には、身の回りのたいていのことは、案外限られた文法知識や語彙で表現できるものです。本講演では、90分程度で、心に浮かんだことを自由に英語で表現するスキルを指導する手順をご紹介します。これは、アウトプット活動を展開する上で非常に重要です。時間やテーマを与えるだけでは生徒は書いたり話したりできるようにはなりません。アウトプット活動をする以前の準備が必要なのです。</p> <p>先生方にワークショップ形式で提供することもできますし、会場に仮の教室を設営していただき、中学生または高校生を生徒として配置していただければ、デモンストレーション授業として実際にお見せすることも可能です。小学校の先生方が対象の場合は、ご自身のアウトプット能力を高める講座としてもご利用いただけます。</p>					
講師	内田浩樹				
<p>講師略歴</p> <p>内田浩樹（うちだ・ひろき）南山大学文学部卒、南山大学大学院外国語学研究科修了。愛知県立半田（はんだ）商業高等学校教諭、名古屋短期大学専任講師、鳥取環境大学准教授などを経て、現在、国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科研究科長・専攻長、英語教育実践領域代表・教授。専門は、英語教師教育、英語教育プログラム開発、教材開発、語彙指導など。著書は「つむぐ英単語（河合出版）」、「PLAY! 拼裝英單（笛藤出版・台湾）」、「英単語メモリー（Jリサーチ出版）」など。また、「国際教養大学・内田浩樹教授のライブ授業シリーズ」（ジャパンライム）等を通じて授業実践をDVDで発信している。</p>					

テーマ	実践的な小学校英語の授業作り				
対象	小	使用言語	日本語	所要時間	90分程度
<p>概要</p> <p>小学校英語の授業づくりでお困りではないですか？ このワークショップでは、英語が苦手な先生からさらに指導力を高めたい先生まで、分かりやすく児童が楽しめる小学校英語の授業づくりについて学べます。 各学校や教育委員会の目的やニーズに応じて、ワークショップの内容は弾力的に変更可能です。 以下は、これまでに実施したワークショップの例です。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>『効果的な指導と評価のあり方』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：英語教育の流れ 2：効果的な学習に向けて 3：教師の大切な姿勢 4：具体的な4技能の指導方法 5：形成的評価方法 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>『文字指導を含めた授業の進め方』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：先生の英語不安を和らげよう 2：読むこと・書くことの指導方法 3：学びを深める振り返り指導 4：文法・表現の指導方法 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>『教室英語を身に付けよう』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：日本語と英語の違い 2：英語使用の意味 3：場面別の簡単表現 4：MERRIER アプローチ 5：授業への生かし方 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>『話す力の育成』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：Speaking 指導で目指すゴール 2：学級担任（専科教員）の指導姿勢 3：Speaking 指導の悩み解決に向けて 4：効果的なチーム・ティーチングに向けて </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>『小学校英語の授業作り』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：他教科の授業づくりを生かそう 2：めあてと振り返りの重要性 3：Authenticity, Personalization, Creativity を生かした活動の配置 </div> </div>					
講師	町田智久（国際教養大学 専門職大学院 教授）				
<p>講師略歴</p> <p>米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校大学院修士課程（英語教授法専攻）及び、同博士課程（初等教育専攻）修了。博士。東京都の公立中学校で英語科教員として12年間勤務。東京都教職員研修センターで教員研修の実施に従事。留学し、帰国後から国際教養大学で教鞭をとる。2015年より現職。秋田県教育委員会を始め、全国の様々な自治体や企業と協働して、小学校及び中学校の英語教員研修を実施。TOEFL Primary® / TOEFL Junior® 公認トレーナー。小学校英語教育学会秋田県理事。国内外の学会で口頭発表するとともに、各学会のジャーナルで論文を発表。小・中学校英語の検定教科書『Blue Sky Elementary』及び『Blue Sky』（啓林館）の著者。著書に『The 6 Principles』（TESOL Publication：共著）、『児童英語教育の理論と実践』（センゲージラーニング：翻訳）、『小学校英語の考え方』（大修館出版）、『英語にぐーんと強くなる』（くもん出版）など多数。</p>					

テーマ	新しい英語教育を生かした中学校英語の指導				
対象	小・中	使用言語	日本語	所要時間	90分程度
<p>概要</p> <p>新学習指導要領を生かしたより高度な英語での指導方法を模索していませんか？ このワークショップでは、新しい学習指導要領で示されている「英語による指導」を中心に、生徒が楽しめる授業をどのように作るのかを分かりやすく学べます。本学ではすべての授業を英語で実施しておりますので、そこでの指導から得られたノウハウをお伝えします。</p> <p>各学校や教育委員会の目的やニーズに応じて、ワークショップの内容は弾力的に変更可能です。以下は、これまでに実施したワークショップの例です。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>『コミュニケーション型授業へ向けて』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：最近の英語教育政策 2：英語で授業を行う 3：英語の授業の実態 4：求められる英語の授業とは 5：サンプル・レッスン </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>『読むことの指導方法』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：Top-down vs. Bottom-up 2：MERRIER アプローチ 3：「読む」から「書く」への連携 4：文法・単語・表現の指導方法 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>『英語の授業作り』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：世界の英語教育の流れ 2：めあてと振り返りの重要性 3：Authenticity, Personalization, Creativity を生かした活動の配置 4：コミュニケーション型文法指導 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>『効果的なチーム・ティーチングに向けて』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：チーム・ティーチングの現状 2：JTE/ALT の強みを生かす 3：チーム・ティーチングの授業例 4：JTE/ALT の効果的な協働に向けて </div> </div>					
講師	町田智久（国際教養大学 専門職大学院 教授）				
<p>講師略歴</p> <p>米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校大学院修士課程（英語教授法専攻）及び、同博士課程（初等教育専攻）修了。博士。東京都の公立中学校で英語科教員として12年間勤務。東京都教職員研修センターで教員研修の実施に従事。留学し、帰国後から国際教養大学で教鞭をとる。2015年より現職。秋田県教育委員会を始め、全国の様々な自治体や企業と協働して、小学校及び中学校の英語教員研修を実施。TOEFL Primary® / TOEFL Junior® 公認トレーナー。小学校英語教育学会秋田県理事。国内外の学会で口頭発表するとともに、各学会のジャーナルで論文を発表。小・中学校英語の検定教科書『Blue Sky Elementary』及び『Blue Sky』（啓林館）の著者。著書に『The 6 Principles』（TESOL Publication：共著）、『児童英語教育の理論と実践』（センゲージラーニング：翻訳）、『小学校英語の考え方』（大修館出版）、『英語にぐーんと強くなる』（くもん出版）など多数。</p>					

テーマ	English-language Literacy Development				
対象	中	使用言語	英語	所要時間	80分程度
<p>概要</p> <p>The degree of structural difference in Japanese and English orthographies makes L2 literacy acquisition a fundamentally different task for Japanese learners of English, compared with how they learned to read in their mother tongue. In this talk, we will analyze data on the recognizable effects that <i>kanji</i> and <i>furigana</i> have on learner visual word-processing, comparing it with the processing strategies that emerge naturally in L1 speakers of English. The lecturer will contrast the reading strategies and point out research data suggesting that, without explicit intervention in teaching L2 literacy acquisition skills, Japanese children are likely to develop inefficient English word-processing strategies, which can retard overall L2 language attainment. The lecturer will give grounded lesson activity ideas designed to train learners to process words in a more efficient manner, thereby giving students a sizeable advantage as they progress in their English studies and potentially raising the “ceiling” of their eventual L2 proficiency attainment.</p>					
講師	Clay H. Williams				
<p>講師略歴</p> <p>Dr. Clay Williams is a professor in the English Language Teaching Practices program in the <i>Graduate School of Global Communication and Language</i> at Akita International University. He primarily teaches linguistics, psycholinguistics, and research coursework. His main research interests include cross-script literacy acquisition, cross-cultural teacher training, child vocabulary development, the genesis of language development in the human species, and technology for foreign language acquisition.</p>					

テーマ	How language works and how we should teach it..				
対象	ALT	使用言	英語	所要時間	80分程度
<p>概要</p> <p>This talk provides a basic overview of linguistic science and focuses on the real challenges faced by learners as they struggle to learn a language. Problems such as the nature of a word and what vocabulary learning entails, grammar structures, online speech processing, sound discrimination, etc. will be explored from a psycholinguistic perspective with the goal of helping ALTs to understand the issues their Japanese learners are facing, as well as to analyze issues ALTs may be having in their own study of Japanese. Tips for how to teach and learn various language subskills will be offered within the lecture.</p>					
講師	Clay H. Williams				
<p>講師略歴</p> <p>Dr. Clay Williams is a professor in the English Language Teaching Practices program in the <i>Graduate School of Global Communication and Language</i> at Akita International University. He primarily teaches linguistics, psycholinguistics, and research coursework. His main research interests include cross-script literacy acquisition, cross-cultural teacher training, child vocabulary development, the genesis of language development in the human species, and technology for foreign language acquisition.</p>					

テーマ	Teaching Grammar Communicatively				
対象	中・高	使用言語	英語	所要時間	70-90分程度
<p>概要</p> <p>When it comes to grammar instruction, teachers often rely on the traditional “knowledge transmission” style of teaching. It is efficient and easy to plan for and execute in the classroom. However, this style of teaching grammar is also one of the main reasons why students (AND teachers) actually dislike grammar instruction. This workshop will present some alternative approaches to grammar instruction which emphasize student-centeredness, communication and inductive reasoning (areas all emphasized in the MEXT course of study). By applying the principles of “active learning,” teachers will experience alternative ways to teach grammar that will engage and interest students while still achieving the grammar teaching objectives in their syllabus.</p>					
講師	Chris Carl Hale				
<p>講師略歴</p> <p>Chris Carl Hale, EdD works in the graduate school at Akita International University. He has taught courses related to language acquisition and teacher training in the United States and Japan for over 20 years.</p>					

テーマ	Assessing Performance in the English Classroom: Teacher, Peer and Self				
対象	中・高	使用言語	英語	所要時間	70-90分程度
<p>概要</p> <p>As language teachers, we know that we want our students to produce language in the classroom, so we assign performance-type activities such as speeches, debates and small group discussions. However, when it comes to grading, teachers tend to rely on only formalized “paper tests” for assessment, assuming that it is too subjective or difficult to evaluate spoken output. In this workshop, participants will be shown ways in which performance can reliably be incorporated into formal grading.</p>					
講師	Chris Carl Hale				
<p>講師略歴</p> <p>Chris Carl Hale, EdD works in the graduate school at Akita International University. He has taught courses related to language acquisition and teacher training in the United States and Japan for over 20 years.</p>					

テーマ	Understanding Each Other: How ALTs and JTEs Can Work Together to Achieve Common Goals				
対象	中・高・ALT	使用言語	英語	所要時間	70-90分程度
<p>概要</p> <p>JTEs and ALTs are an integral part of English education in Japan, and success in the classroom depends on their cooperation and mutual support. Many JTEs experience frustration or confusion when trying to incorporate ALTs in the classroom, and ALTs can sometimes feel the same way. This workshop is designed to help JTEs better understand their ALTs, and find ways to use them that both support the JTEs teaching objectives, and also utilize the unique benefits that ALTs can provide in the classroom.</p>					
講師	Chris Carl Hale				
<p>講師略歴</p> <p>Chris Carl Hale, EdD works in the graduate school at Akita International University. He has taught courses related to language acquisition and teacher training in the United States and Japan for over 20 years.</p>					

テーマ	Teaching for Communication: Practical Activities and Ideas				
対象	中・高・ALT	使用言語	英語	所要時間	70-90分程度
概要					
<p>When MEXT calls for more communicative teaching in the classroom, teachers can feel pressure to design activities that are communicative while still keeping the students on pace with the curriculum. This workshop will introduce communicative teaching ideas that can easily be adapted to teachers' existing textbooks and curriculum.</p>					
講師	Chris Carl Hale				
講師略歴					
<p>Chris Carl Hale, EdD works in the graduate school at Akita International University. He has taught courses related to language acquisition and teacher training in the United States and Japan for over 20 years.</p>					